

## エペソ書の3つの奥義

2008年8月5日 アシエル・イントレーター

エペソ書には3つの深遠かつ霊的な奥義が述べられています。3つともアダムとイヴの結婚の象徴に基づいており、二人が一体となることです。3つの奥義は1、3、5章にあります。(これらを逆から見ていきます。)

### エペソ 5:31-32

**「それゆえ、人はその父と母を離れ、妻と結ばれ、ふたりは一心同体となる。」この奥義は偉大です。私は、キリストと教会とをさして言っているのです。**

1. 最初の奥義は「メシアとの婚礼による密接な関係」です。夫と妻が一体となるように、霊において私たちはイエシュア(イエス)と一つとなります。人類が神と一つになる機会、メシアを通して主と結び合わされることは驚くべきことです。新約聖書は私たちと神との婚礼の契約なのです。

神は人をご自分に似せてお造りになり、人が一人でいるのはよくないと仰せられました。それは、ある意味において主ご自身のことをおっしゃっています。主は私たちと交流するために私たちをお造りになりました。男と女が結婚のみを通して親密になれるように、私たちが神と親密になれるのは、イエシュアを通じた信仰の契約のみなのです。

世界的な信仰共同体—エクレシア(訳注:ギリシャ語)、ケヒラー(訳注:ヘブライ語)、教会、大イスラエル連邦—はメシアの花嫁として造られました。私たちは主のものであり、主は私たちのものです。雅歌にある婚礼による密接な関係は、イエシュアによる神と私たちの一体化を通して霊的に成就していることを表します。

2. 2つ目の奥義は福音によるユダヤ人と異邦人の連携です。

### エペソ 3:3, 6

この奥義は、啓示によって、私に知らされたのです。その奥義とは、福音により、キリスト・イエスにあって、異邦人もまた共同の相続人となり、ともに一つのからだに連なり、ともに約束にあずかる者となるということです。

アブラハムから紀元70年の神殿崩壊まで、神は2000年かけてイスラエル国家に神の御国の契約の土台を構築するのに費やされました。イエシュアから現代まで、神は2000年かけて全世界に神の御国の福音を述べ伝えるのに費やされました。

1967年(ルカ21:24)にエルサレムが解放されてから現在、神はご自身の御国において、イスラエルと教会に新しい連携と協力をもたらしておられます。十字架は私たちと神を和解させるだけでなく、私たちがお互いに和解させています。それは、白人と黒人、男性と女性、ユダヤ人と異邦人です。イスラエルにおいて私たちの信仰の最も尊い表現は、メシニック・ジュー信者とパレスチナ・アラブクリスチャンとの間の一致と愛です。

神のご計画はイスラエルを、その後教会をお造りになり、そしてその二つを一緒にすることは、アダムを、その後イヴをお造りになって、二人を一緒にしたことと並行しています。イスラエルと教会の関係の奥義は、メシアと私たちの婚礼による密接な関係と並行しているのです。

3. 3つ目の奥義はメシア・イエシュアによる天と地の回復です。

### エペソ 1:9-10

**みこころの奥義を私たちに知らせてくださいました。それは、神が御子においてあらかじめお立てになったご計画によることであって、時がついに満ちて、この時のためのみこころが実行に移され、天にあるものも地にあるものも、いっさいのものが、キリストにあって一つに集められることになるのです。**

再び注意して頂きたいのは、奥義は異なった性質のもの二つを一緒にしていることです。神は天と地両方をお造りになられました。それらは「良かった」のです。人が造られた時、それは「非常に良い」となりました。人の罪とサタンの造反によって創造は破壊されてしまいました。イエシュアを通して、罪とサタンの影響は取り除かれ、天と地が回復するのです。

イエシュアにより、天と地は「非常に良い」以上のものとなり、「最高に良い」、あるいは「完全」となるのです。神の御国の究極的なご計画は、私たちは亡霊として霊的な「涅槃」に転生するのではなく、回復した創造の中で死者の中から復活し、新しく復活の体となることです。(ローマ 8:18-23)

(私たちの復活の体がどういうものであるかは、イエシュアの復活の後、新しい体のイエシュアが出現したことや、山で変貌した時の主の栄光の状態から垣間見ることができます。新しい創造は、自然界の回復と再生が肉体の復活と並行するのです。)

天と地との間に調和が生まれます(「御国が来ますように。みこころが天で行われるように地でも行われますように。」—マタイ 6:10)。黙示録の最後の2章は、創世記の最初の2章の輝かしい回復を述べています。

これら3つの偉大なる奥義はイエシュアご自身の中に見出せます。私たちが神との婚礼により一体となるのは、イエシュアが神である人であるからです。ユダヤ人と異邦人が一致するのは、イエシュアが教会の頭でもありイスラエルの王でもあるからです。天と地が一致するのは、イエシュアが神の御子でありアダムの子であるからです。

注:ヘブライ的世界観はこれらの3つの奥義を、1、3、5章の順番で起こると見えています。まず、天と地を理解し、次にユダヤ人と異邦人を理解し、そして私たちと神との一体化を理解するのです。ギリシャの世界観は神との一体化から始まり、ユダヤ人と異邦人が次に続き、そして天と地の回復で終わるのです。両方の場合において、ユダヤ人—異邦人の連携は3つ目の奥義への架け橋です。聖書はヘブライ語とギリシャ語と両方で書かれているように、これら二つの世界観は神の御前で同様に受け入れられているのです。